

リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会 結果概要

1. 開催概要

- 開催目的 : リニア駅周辺に整備を予定している魅力発信施設等を対象として、当該施設等への事業参画に関心がある民間事業者を広く公募し、民間事業者からのアイデア提案や、今後の施設整備や管理運営方法等に関する意見交換を行う。
- 開催日 : 平成 30 年 11 月 21 日 (水)
- 参加者数 : 18 事業者 (サービス、飲食物販、農林業、交通、エネルギー、情報等に係る事業を行う市内外の民間事業者)

2. 民間事業者からの発表概要

- 今回の民間事業者からの提案は、南信州や飯田ならではの様々なメニューをリニア駅周辺で提供することが大事であり、地域資源を活かした観光や産業振興、飲食提供、地域文化の発信、交通や 5G 等の次世代サービスなどの内容であった。
- これらのサービス提供は、リニア駅周辺で完結するだけではなく、飯田市中心市街地や南信州各地への誘因、さらには、品川駅等のリニア駅での情報発信など、ここに来たくなるような情報、体験を提供し、広域の観光振興、地域振興に結びつけることが重要であるとの提案を頂いた。
- また、2027 年のリニア開業時、国内の人口減少が進む中、海外からの観光やビジネス客の増加が見込まれることから、これらをターゲットとしたビジネス展開等を今から準備しておくことが必要といった提案も頂いた。
- その一方、今後の事業参画に向けた問題提起として、一つの企業が独占することなく、地域の様々な事業者が関わることのできる仕組みづくりが必要であることや、リニア駅から各地への移動手段の確保が必要などの意見も頂いた。

3. 当日の様子



リニア駅周辺整備計画の現状説明と意見交換会 結果概要 (平成 30 年度リニア駅周辺整備に係る市民説明会)

2018. 12. 2 飯田市公民館

1. 開催概要

○開催日時

2018 年 12 月 2 日 (日) 12:00~14:30 VR 体験会
14:30~16:30 市民説明会

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) リニア駅周辺整備計画の現状説明 佐藤 健 副市長
- (4) 講演「駅前空間をみんなでつくり上げよう (全国の事例から)」
(有) ハートビートプラン 泉 英明 氏
- (5) 高校生からのアイディア・ビジョン等の発表 (2 組から発表)
- (6) 意見交換会
- (7) 閉会

2. 出席いただいたリニア駅周辺整備デザイン会議学識者

小澤 一郎 公益財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター顧問
大西 達也 一般財団法人 日本経済研究所 常務理事 調査局長
鈴木 弘司 名古屋工業大学社会工学科准教授
上原 三知 信州大学総合理工学研究科准教授

3. 高校生からのアイディア・ビジョンの概要

【発表者①：飯田高校 原さん】

創生には欠かせないリニア	<ul style="list-style-type: none">・飯田に住む若者を増やすことが重要であり、進学などで市外へ出た若者のリターンや都会の若者の移住を促すためには、リニア開業はチャンスである。・リニア開業によって飯田は生活環境と仕事環境を兼ね備えることとなる（飯田に住み、開発などの仕事に従事し、トラブルがあれば 40 分程度で東京へ駆けつけることが可能となる）。・住むまちとしての飯田の発展を目指し、今の段階から飯田のすばらしさやリニアを活かした飯田でのライフスタイルを PR していくべきである。
--------------	---

【発表者②：リニアカフェ 飯田高校 今村さん、松村さん、岡庭さん】

トンネル透明化	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア軌道を透明化し、走行するリニアが見えるようにしてはどうか（鉄道ファンや子どもが飯田に集まるなど、リニアのまちとしてのPR効果が期待できる）。 ・景観への影響が小さくなるのではないか。
2段遊歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道を2段とすることによって、より多くの人が歩くことができるようにしてはどうか。 ・2段遊歩道の構造を活かしたプロジェクトマッピングなどを行ってはどうか。
駅前農地計画	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅ができても、来訪者は増えないと考えているため、飯田の本質的な魅力を発信するとともに、来訪者の少ない駅となったとしても活用ができるよう、駅前を農地化することを提案する。 ・小さな店舗を配置し、運営者の入れ替わりを容易にすることが重要と考える。
モビリティの変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアリングエコノミー（相乗り）や完全自動運転などへの対応を見据える必要がある。
放課後割	<ul style="list-style-type: none"> ・学生がリニアを利用しやすくなるような割引制度ができると良い。

4. 意見交換会での意見（司会進行：泉）

会場からの質疑、感想等	学識者より
<p>VR（バーチャルリアリティ）等、全体的には、楽しく見せていただいた。</p> <p>駐車場は、750台で想定していたが、自動運転がかなり進むと大きな駐車場はいらないのではないか。そうなると駅前は畠や田んぼにし、冬にはおんべをやつたらいいのでは。</p>	<p>自動運転等技術が進んでいる中で、どのようなプランニングにするか。現在は過渡期である。</p> <p>駐車場の台数については、これまでのものの積み上げの中で、はじかれた数字である。今後、駅に停めておく必要がなくなる可能性はある。今設計で考えているのは、可変性を持たせることである。完全自動運転化については、10年先にも実現していないのではないか。部分的にこの場所は自動運転という段階。リニア駅周辺では、先んじて自動運転の利用等を行っていくと自動運転が地域に入っていきやすくなる。駅の駐車台数は大切だが、世の中の動きを見据えつつ、中心市街地との関係も大切になってくる。</p> <p>駐車場は、駐車場としても使えるが、広場としても使えるようなグリーンインフラという多機能性を持たせたい。バランスを取りながら検討していきたい。</p>

会場からの質疑、感想等	学識者より
<p>電柱が周りにあることにより景観が悪くなる。駅前は地中化になると思われるが、少し離れると電柱が出てくる。景観としてどうなのか。</p>	<p>駅周辺の整備区域は、電柱、下水上水等のインフラは地下化する。今回の整備では、下水上水はもちろん、木質バイオマス等の必要なインフラは一緒に地中化する。このエリアはゼロエミッションを目指している。これに係るものは地中化し、一緒に整備することで、コスト面を抑えられる。実施設計で具体的に考えていく。</p> <p>周辺に広げていくのはその次の議論。</p>
<p>意見交換会に参加するまではリニアに対して、否定的な意見を聞いてきた。どのように整備していくかなど聞いて、考えが変わった。知らないまま否定できだった。どういうことをやっていくか考えていかないといけないと感じた。</p>	<p>このような話は知られていない。知らないと不安になると思われる。このような話し合いを積み重ねていきたい。</p>
<p>ワークショップに参加している。ワークショップには、これからリニアを背負って立つのは自分であるという気持ちで参加している。自分は、家族、同僚に情報提供している。</p> <p>焼肉ロックフェスをやっているが、このような活動をリニア駅とリンクさせていく。人形劇などもどう結び付けていき、世界に誇れる飯田を考えて行動をとっていくことが大切。</p> <p>楽しいと思えるのは、ワークショップでもそうだが、自分の意見が反映されていることである。</p> <p>飯田線乗換新駅についてもほしいから作ってくださいというスタンスであれば絶対にできる。そのようなスタンスで行動し、地道にリニア駅のファンを作つて行くことが大切である。</p>	<p>リニアが来て一気に変わることはなく、みなさんが楽しんでいる姿が大切ではないか。</p>

高校生からいただいたアイデアも含めて、設計プランへの反映や仕組みづくりを検討していきます。



▲VR体験会の様子



▲泉氏による講演の様子



▲高校生による発表の様子

リニア駅周辺整備 ワークショップだより

平成 31 年 1 月発行

vol. 5

● 第5回リニア駅周辺整備ワークショップを開催しました！

12月20日に第5回目となる「リニア駅周辺整備ワークショップ」を開催しました。当日々は初参加の方を含む、総勢27名にご参加いただきました。

今回は、第4回ワークショップを踏まえてブラッシュアップした計画案や、これまでの検討成果をまとめたデザインノート（下段をご覧ください）について、意見交換を行いました。

開催実績

- ◆日 時： 平成 30 年 12 月 20 日（木）
18:30 ~ 21:00
- ◆会 場： 飯田市役所
- ◆参加者数： 27 名（初参加5名）



■模型を見ながら説明を聞く様子

● デザインノートとは？

長期間かつ多くの関係者が関わるプロジェクトを適切に進めていくためには、計画・設計・工事に至るそれぞれの段階で、立ち戻ることのできる“計画の柱”をまとめておくことが重要です。

そこで、リニア駅前の考え方や
目指す空間像を地域の人々や多くの
関係者・関係機関と共有するための資料として『飯田・リニア駅前空間デザインノート』の作成を進めています。

このデザインノートは、市民向けのパンフレットになるとともに、関係機関や将来の設計者・工事業者などへの説明資料・意思伝達資料としての役割を担います。

また、現在検討を進めている基本設計の概要版にもなります。そのため、コンパクトでありながらも、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。



模型写真やイメージ図、できるだけ簡単な言葉を用いるなど、ビジュアルやわかりやすさに配慮します。

■デザインノートの素案（ワークショップ提示資料）

基本設計

※ワークショップの結果も踏まえながら検討中

内容が多いので
全部を読むのは
大変！！



飯田・リニア駅前空間 デザインノート

市民や関係者
にもわかりやすく
まとめます！



●ワークショップで出された主な意見

今回のワークショップでは、デザインノート（表面をご覧ください）の素案を見ながら、これまでのワークショップでの議論の成果が反映されているかを確認しました。

いただいたご意見は今後の検討の参考とともに、デザインノートをワークショップ成果としてまとめていくことについて賛同をいただきました。

みなさまからのご意見（抜粋）

- ・大屋根を必ず実現してほしい
- ・駅自体が観光名所となるようにしたい
- ・照明による夜間の演出も考える必要があるのではないか
- ・広場の中に腰を下ろしてゆっくりできるベンチなどがあるとよい
- ・モニュメントなどの芸術的な要素があるとよい
- ・乗換新駅へのアクセスを考える必要があるのではないか
- ・防犯対策も考える必要があるのではないか
- ・地元の高校や大工などと連携が図られるとよい
- ・イベント開催時の駐車場の運用を考えなければならない

●リニアが開業する将来に向けたメッセージ

ワークショップの最後に、リニア駅や地域の将来への想いを、りんごをかたどったカードにメッセージとして綴っていただきました。このカードを模造紙に貼り、りんごの木をつくり上げました。

「100年後に誇れる世界一の駅に」や「過ごしてもらえる街に」、「飯田を世界に発信」といった趣旨のメッセージのほか、自らが「イベントに取り組みたい」といったメッセージがあるなど、一人ひとりの想いがこめられたりんごの木となりました。

今後、このりんごの木を市役所内に掲示しますので、来庁された際にご覧ください。



■メッセージの実が実ったりんごの木

今後ともご協力をお願いいたします。

昨年2月から5回にわたってワークショップを開催してきましたが、今回が一旦最終回となります。

この間、延べ150名以上の方にご参加いただき、さまざまなアイデアやご意見をいただき、リニア駅周辺整備の計画案をまとめることができました。ご参加いただいたみなさまに感謝いたします。

2027年のリニア開業に向けて、今後も市民や事業者など、多くのみなさまとの連携を図りながらリニア駅周辺整備を進めていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



■今回ご参加いただいたみなさま

問い合わせ先 飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課

☎ : 0265(22)4511 内線3334

✉ : linear-seibi@city.iida.nagano.jp

FAX : 0265(22)5371